

成果の説明書

(氏名) 土谷岳史	(学部) 経済
1 重要事項 ① 前年度から継続している Brexit の研究について、研究会で中間報告書を作成した。筆者は「移民問題とメディア政治」と題して、 Brexit 決定にいたる英国の移民問題の生成をメディアの影響力という観点から考察した。その結果、明らかになったのは、英国で移民が社会問題として議論される土壌は常に伏在していたが、90年代以降にそれが顕在化したということである。その際に、移民難民は外部から英国社会に脅威を持ち込む存在とされ、英国メディアがフェイクニュースを流してその社会認識の形成に大きく関与していた。この移民の安全保障問題化が EU 離脱をめぐる国民投票期間でも強く影響し、ひとつひとつから EU と移民に関する正確な知識を遠ざけることとなった。国民投票期間においてもメディア等から発信される移民に関するフェイクニュースが浸透し、正確な報道が受容されなかったのである。有識者は最後には浮動層が「現状維持」を選ぶ傾向にあるため、 EU 残留という現状を選ぶと考えていた。しかし浮動層は EU 残留により移民が押し寄せることで現状が変更されると考え、離脱を選んだと思われる。本報告書は改訂の上、書籍として日本評論社から出版された。 ② 2018年度日本国際政治学会において「 EU におけるロマ」という題で報告を行った。一般に公開される市民講座を兼ねた本部会の特性にかんがみ、報告ではロマに関する現実を映像資料なども用いながら紹介したうえで、 EU がどのようにロマをとらえ、政策対象としているのかを検討した。	
2 その他の事項 演習では夏合宿として群馬県大泉町を訪問し、町役場の方などにお話を伺った。本合宿を踏まえ、後期の演習では3年生全員でひとつの論文を作成した。本論文が本学経済学会の懸賞論文で佳作を受賞した。	
3 次年度以降の計画・抱負 Brexit の研究会は来年度も継続され、最終報告書を作成する予定である。国際政治学会での報告を論文として発表したい。	